

第1回有識者会議における論点整理

資料4

大分類	小分類	有識者会議での意見	対応
訴求ポイント	失敗事例や苦勞についての掲載	<p>○6つの訴求ポイントは、前向きな取組のみで、苦勞した部分が見えてこない。(草野委員)</p> <p>○上から目線的な表記が多いように感じる。(齊藤委員)</p>	<p>訴求ポイントの説明文に失敗事例や至らなかったことに対する表現を盛り込む。</p>
	事実を伝えるということ	<p>○ストーリー性をもたせたらアーカイブではないのではないかと。(草野委員)</p> <p>○網羅的な知識の羅列、主観を交えない、ストーリーを交えないのがアーカイブとしての一つの役割であるという考え方がある。一方で利用を促進したい、訴えたいことがあり、そのことを形にしていくと、網羅的なアーカイブからは離れて意図が入ったものになるということ。悩ましい部分ではあるが、どちらかという意図が入っていく方向になると思う。明確な意図ということではないが、区切りやポイントが入った分け方はあるのではないかと今回の提案だと思う。(南委員長)</p> <p>○片方だけでなく、データとして見たいという切り口とデータを串刺したものという、両建てで出せるといい。(工藤委員)</p>	<p>客観的に事実を掲載し、それを検索し易くするアーカイブの面と、時系列にすることなどで利用者が分かり易いように、ある程度ストーリー立てをする面の両建てでWebサイトを構成する。</p>
	表現	<p>○「個性」と「しなやかな対応」の内容が想像できないのではないかと。(工藤委員)</p> <p>○「しなやか」とは誰から見てしなやかなのか、という議論を呼ぶ可能性はある。受け取り方は個人によって変わってきてしまう。被災者の立場からみると、本当にしなやかだったのかという話になるかもしれない。(柴山委員)</p>	<p>分かり易さという観点から、「個性」を「障がい者等への対応」、「しなやかな対応」を「前例なき行政対応」と修正する。</p>
	カテゴリ	<p>○今回のように6つに分けて、さらに具体的なサブカテゴリがプルダウンで見えて、そこから選択ができるという中間のようなものがあると分かりやすいかもしれない。あまりにもデータの範囲が広いためにまとめるのが難しい。ユーザー視点からするとサブカテゴリがあると使いやすい。(工藤委員)</p> <p>○復興計画や総合計画など、県民がコミットしやすいフレーム・カテゴライズの様相があった方がいいのかもしれない。いろんな場で議論した結果、蓄積されてきた復興計画の大きなフレームを利用するもの大切かもしれない。(南委員長)</p>	<p>訴求ポイントの下位層に、岩手県地域防災計画及び復興計画を参考に「大項目、中項目」を設定する。</p>
	ターゲット設定	<p>○利用者のターゲットを明確にするというのではないかと。ユーザーの使い勝手が良ければこれから来る人に資料を組み合わせで提案できるようになると思う。例えば、自衛隊のような専門集団が活用し易いアーカイブになればよい。(草野委員)</p>	<p>Webサイトを訪れる際に想定資料がある人(検索者)と想定資料がない人(閲覧者)に分類し、それぞれ検索性に配慮した見せ方、ストーリー立てなどの見易さに配慮した見せ方について、両建てでWebサイトの構成を検討する。</p>
	その他	<p>○沿岸部から県庁まで100km離れている岩手県の特徴として分断型被害がある。和歌山は岩手と海岸線が似ていて、近くに岩手は仙台、和歌山は大阪という都市があるという環境が似ている。そういったことから和歌山は岩手に学びたいと言っている。宮城県は平野での被害、福島は原発とそれぞれ被災状況が異なる中で、岩手のカラーをどこまでだせるのかということが大切。(草野委員)</p>	<p>後方支援活動等を始めとする、岩手ならではの取組を掲載する。</p>
時間軸	震災前について	<p>○発災の前に市民がどのように考えていたのかということが、大切なことではなかっただろうか。助かった方の多くは「まさか」という言葉を何度も言っている。犠牲者を出さないようにするためには震災の前にどのような心構えがあって、多くの犠牲者が出てしまったのかを考えるべきではないかと。(齊藤委員)</p>	<p>発災前の資料もアーカイブすることとしているが、時間軸の「発災前・直後」を、分かり易く「発災前」、「発災後」の2つに分類する。</p>
	時間軸の設定	<p>○時間軸について、中越のおじや震災ミュージアム「そなえ館」では3時間、3日後…というように設定している。ほかの災害と対応について比較する際、時間軸の設定が異なると比較対象にならない可能性が高い。5ヵ月で災害対策本部が廃止したという事実があるが、そこから「5」で区切るというのは必ずしも正しいものではないのではないかと。災害への対応をしっかりとみていくためには、同じ時間軸で比較しないとアーカイブとして生きていかない。(柴山委員)</p> <p>○大学などから毎日のように問い合わせがあるが、その際聞かれることは1年毎にどのように変わっていったのかということ。1、3、5という数字ではない。利用する方々に時系列で示すことができるためにも矛盾の生じないような定点観察は必要だと思う。(草野委員)</p>	<p>次のとおり時間軸を設定する。 「発災前」「発災直後」「1週間」「1ヵ月」「3ヵ月」「5ヵ月」「1年」「3年」「6年」 ※ 「5ヵ月」⇒県災害対策本部の廃止時期 ※ 「3年」「6年」⇒県復興計画における復興期間に合わせたもの</p>